

めぐみ 慈 恵

敬愛幼稚園／敬愛中学校／敬愛高等学校

〒800-0035 北九州市門司区別院6番1号

中・高 TEL 093-381-3537 FAX 093-391-8049

幼稚園 TEL 093-371-2267 FAX 093-391-9385

敬愛小学校

〒800-0057 北九州市門司区大里新町1番7号

TEL 093-381-0611 FAX 093-381-0601



伊沢拓司さん 講演会のため来校

めぐみ

人生で大事なことは、自分を主語にして生きること。

そうすれば辛くても納得がいくし、

諦めずに歩き続けることができると思うんです。

福島 智

普段の生活の中で私は、「生きる」ということについて、特に意識をするようなことはほとんどありません。何気なく毎日を過ごしていると言ってもいいでしょう。

しかし、よく考えてみると、生きることはそう簡単なことではないように思われます。思い通りにならず、悩み苦しむことも多くあります。ものごとが順調に進んでいるときはいいのですが、ひとたび困難にぶつかると、不平や不満が口をつき、途端に気力をなくしてしまいます。

それでも私たちは、いのちのある限り生きていかなければなりません。それがまさしく、「自分を主語にして生きる」ということなのでしょう。要は、人生に起こるひとつひとつの出来事としっかりと向き合うことができるかどうか。そのことが常に問われているのだと思います。

立ちほだかる壁を前にしたとき、努力して乗り越えられることもあります。ひとりで難しければ、誰かの力を借りることも考えられます。もうこれ以上進むことが出来ないと思えば、それが遠回りであったとしても、違う道を探してみるのも、また疲れたら休むことがあってもいいのではないのでしょうか。

どのような生き方を選んでも、「自分を主語にして生きる」ことに他なりません。辛くても苦しくても、自分の道を切り拓いていくのです。結果がどうであれ、私が引き受けていかなければならない人生、私が歩んだ道には、はつきりと私の足跡が刻まれていきます。

ただ、主語だけでは文章が成立しないように、人生も私だけではどうすることもできません。さまざまな修飾語が補われ、述語を伴って文章が出来上がる如く、あらゆる出会いや経験に彩られ、それらがひとつとして欠けることなく大切に織り込まれながら、私を主語にした私だけの物語が、どこまでも豊かに紡がれていくのです。

敬愛高等学校

第73回卒業証書授与式

校長式辞（抜粋）

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。みなさんにとって、この高校3年間はどのようなものでしたか。高校入学時に思い描いていた3年間でしたか。それとも想像もしていなかった3年間でしたか。

この敬愛高等学校で過ごした年月の間には、様々な出来事があったことと思います。楽しかったこと、辛かったこと、悲しかったこと、皆さんひとりひとりその経験や思い出は違うことでしょう。すべての日々が、今日を迎えることができた糧になっていると思います。



ます。経験から学びがあり、その学びが成長を促します。

皆さんが中学の卒業をひかえていた3年前の2月、突然の全国一斉臨時休校により、皆さんの中には中学の卒業式に参加できなかった人もいたかもしれません。

本校の入学式も中止となり、不安と戸惑いの中での高校生活が始まりました。体育大会や敬愛祭など、従来行われていた学校行事は中止となり、皆さんには悲しい思いをさせてしまいました。感染対策だから仕方がないとはいえ、納得いかない気持ちでいっぱいだったと思います。

しかし、その中であつて皆さんは笑顔を見失わず、ひとりひとり違う形で力を発揮し、この難局を乗り越えてくれました。その姿は、大人である我々教職員や保護者の方々にも大きな勇気と希望を与えてくれました。

昨年度や今年度、少しずつ学校行事を行うことができたことも、皆さんの努力と工夫の賜だと思えます。困難や課題に対して自ら考え工夫し、話し合いの中で新しい発想を生み出し実践する。その姿は、今まさに求められている、社会の変化に主体的に対応できる力を具現しているといえます。

新しい社会を創っていくためには、未来を見つめながら、先を読み、変化を恐れずに前に向かって行動することが求められます。また、他を認めるとともに、自分自身をよく理解することがたいせつです。

これから大人になっていく中で、前を見ることばかり要求され、ともすれば自分の今あ

る姿を見失ってしまいがちですが、その時は少し距離を置いて、俯瞰的に自分の姿を見てください。きつと新しい発見や、困難から抜け出す術が見つかると思います。

新型コロナウイルス感染症拡大の経験、このことは、私たちへ予測不可能なこれからの時代を生きていく覚悟を問われたように感じます。同時に、何気ない日常が、実はかけがえのない大切な日々であつたということに気づかされたのも事実ではないでしょうか。これから先、経験したこのない、考えられないような未来が待っているかもしれません。

しかし、皆さんは一人ではありません。多くの人たちが支えになってくれると思います。また、多くの人たちの支えになってください。皆さんはこのコロナ禍を乗り越えようとしていたくましい世代です。そのことを忘れずに、力強く人生を歩んでください。

校長 日高 克巳

送 辞（抜粋）

数年続く新型コロナウイルス感染症の影響により、先輩方との思い出をあまり作ることができませんでした。その意味では、確かに交流する機会は少なかったかもしれません。

しかし、絆の強さが劣っているとは思いません。寧ろ、この困難を共に耐えてきたという強い絆があると思います。

また、先輩方との思い出は、より一つ一つ

が濃く、かけがえないものになったときえ言えます。行事や委員会活動の時のとっさのフォローが、部活動での的確なアドバイスが、そして、日常生活で何気なく声をかけてくださったことが、とてもありがたく感じ、その時の先輩方の姿が、私たちの目にはとても頼もしく、憧れの存在として映りました。

また、3年生になり、先輩方が希望する進路に向けて、情熱を持って努力する姿は、私たちの身を引き締められました。先行きの見えづらい日が続く中で、これから私たちは3年生になります。先輩方のように、上級生として後輩を引っ張っていけるのか不安でもあります。しかし、今日までに先輩方が伝えてくれたことを、精一杯受け継いでいきたいと思います。そして、先輩方との思い出や、共に高い壁を乗り越えてきた自信を糧に励んでいきます。

在校生代表 若杉 陽菜



答 辞 (抜粋)

思い返せば、3年前、新型コロナウイルス感染拡大の影響により入学式が中止になり、それ以来クラスメイトと交流する機会もないまま、6月までオンライン授業が続きました。クラスメイトや学年の仲間たちと初めて会ったのは入学してから2か月半が経ったころでした。徐々に通常授業に戻っていききましたが、感染対策により他クラスと触れ合う機会は必要最低限のものでした。

そんな時に行われた高校最初の行事は、私たち生徒会1年生が中心となって企画したクラスマッチでした。何度も議論を重ねた結果、クラスを解体してチームを組むことに決めました。その結果、交友の幅が広がり、私たちにとつても大変思い出深いクラスマッチになりました。それから様々な行事を経験していく中で、段々と学年内や他学年との交流



も増えていったように思います。

このように私たちの高校生活は、私たち生徒だけでなく、世界中の誰もが初めて経験することで、その対応を迫られ、環境が大きく変化していく中で3年間でした。

そのような中で、私たちの学校生活や学習面をサポートしてくださった先生方、本当にありがとうございました。また、これまで18年間、多くの葛藤や苦難の中で、ここまで育ててくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

これから先、辛く苦しいことが起こったとしても、この3年間で培ったことを活かし、前を向いて進んでいきます。

先生方や後輩たち、同級生との別れは悲しくもありますが、これからは敬愛高校の卒業生として恥ずかしくないように、精一杯羽ばたいていきたいと思えます。

卒業生代表 江平 陽香

伊沢拓司さん クイズ大会&講演会

3月6日(月)、鎮西別院本堂に、伊沢拓司さんをお招きし、特別授業を実施していただきました。

伊沢さんは、東京大学出身でクイズ王として活躍されている方です。伊沢さんは、自らの経験談を交えながら、クイズを通して学ぶ楽しさをお話しくださいました。



【生徒の感想】

伊沢さんは、講演会において「言語化」することの大切さをおっしゃっていました。

これは、勉強でも将来働くことにおいても通ずることだと思えます。今の状況が良くても悪くても「言語化」することで、自らの成長につながると思えました。

また、伊沢さんのお話にあった、ギリギリできるかできないかの問題に取り組み、自分の限界に挑戦していきたいと思えます。限界を超えて、成長できるのが勉強面においてもスポーツの面においても本当の楽しさだと思います。

実際に伊沢さんと対面して、緊張と感動で多くはお話できませんでしたが、優しく頷きながら話を聞いて下さって嬉しかったです。

中学3年 植園 楓



小学校スクールライフ



第15期生 小学校課程修了に向けて

第15期生の修了式が、3月15日(水)に行われます。小学校課程修了に際し、小学校生活の六年間を振り返り、作文と詩で表現しました。

「初めての学校生活」

1年生のときの一番の思い出は二つあります。一つ目は、初めて仏教に触れたことです。最初はどんなことを勉強するのか不安でしたが、宗教の先生が優しく、大切なことをたくさん教えてくれました。二つ目は、初めてできた友達のことです。初めて自分から声をかけてたくさん友達になることができました。今でも仲が良い友達です。

今思えば、一生懸命に学校の勉強に慣れようとしていたり、友達を作ろうと声をかけたりして、頑張つて過ごしていたと思います。(安住)

「みかん狩り」

私の1年生の思い出は、みかん狩り遠足です。2年生の先輩と一緒にみかんを採って食べたときの美味しさは今でも思い出に残っています。また、歓迎遠足も思い出に残っています。当



時の6年生もとても優しく、遠足以外で昼休みに一緒に遊んでくれました。当時は鬼ごっこが一番好きでした。今の高校年生の先輩たちに会ったら、お礼を言いたいと思います。(藤井)

「大切」

宿泊研修で行った小さな触れ合いコーナー
小1だった私もすぐに感じた
小さくて温かい大切なもの
嬉しくて楽しい大切な思い出



宿泊研修で気付いた大きな学び
小6になった私はやっと思った
世界中の全てが大切なもの
そう思ったことも大切な思い出
大切つて一生のこころの財産に違いない

(遠山)

「スポーツフェスティバル 優勝するぞ」

汗がたらたら流れ出る
アウトになってしまっても
エラーをしても
みんなはちつとも怒らない
ドンマイドンマイ
みんなの掛け声 (松本)



6年生 最後のお茶会

本校では1年生から、お茶の作法を学習し、毎年保護者をお招きしてお茶会を開催しています。6年生は2学期に、自分の抹茶茶碗を製作し、3学期に、自分達でお茶会を企画・運営しました。

参加いただいた保護者の方は、「6年間の成長を目の当たりにして、本当に感激しました。今日の抹茶の味はずっと忘れません。」と感想を述べられました。

敬愛中学校進級に向けて

本校では、敬愛中学校への進級にあたり、5、6年次に計3回のコース適性試験を行っています。実施教科は、国語・算数(数学)・英語です。児童は、3回の試験を通して、自身の学習を振り返り、担任や教科の先生といっしょに課題点を克服していくことで、成長していきます。2回目の試験では、算数は小学校の全範囲を出題、英語は英検の4級〜3級レベル(目安)の難易度です。3回目の試験は、算数から数学に代わり、英語の試験も英検の3級レベル(目安)へと難易度を増していきます。

本校では、英語の授業はネイティブの先生を中心に1年生から週に3回実施し、算数では高学年で算数(数学)専門の先生が授業を担当していきます。専門性をいかし、児童は小学校内容を超えた範囲を無理なく身に付け、その学習成果を実感しています。

今年度の6年生も、試験の度に見張る成長を遂げていきました。この経験が、これからの学園生活にも必ず役に立っていくことでしょう。





成道会発表会

お釈迦様がお悟りを開かれた12月8日成道会（じょうどうえ）をご縁に敬愛幼稚園では発表会を行っています。

今年度は、各学年の入れ替え制で発表会を行いました。楽器を使った演奏を披露したり、曲に合わせた衣装を身に纏って、全身でお遊戯を披露したりと、微笑ましい中にも成長を感じるステージを披露してくれました。中でも年長児は、「しんらんさま」の劇の発表を行い、長いセリフをしっかりと覚えて、大きな声で観客を魅了し、感動を与えてくれました。

多くの観客を前にしても、しっかりと自分を表現できるよう、日々の教育の中でも発表の場を多く設けています。その成果もあり、どの学年も堂々と自分らしさを表現できていたように感じます。キラキラとしたステージに立てる喜びを味わいながら、そこに至るためには、自分の努力と周りの方のお陰があることを少しずつ感じていける成道会発表会となっています。



学園内での交流

敬愛幼稚園では学園の特徴を活かし、敬愛小学校へ出向き、パソコンルームを借りてパソコン教室を行ったり、中学生や高校生との交流会を行ったりしています。今年度は、高校生が授業の一環で年長児の教室に来てくれました。それぞれ決まった相手とペアになり、自己紹介から始まります。園児の中には、恥ずかしくて名前が言えなかったり、質問に答えられなかったりして、高校生たちも戸惑いを見せている場面もありました。

しかし、年齢が近いこともあり、すぐに打ち解け、最後には別れを惜しみ、姿が見えなくなるまでお兄さんたちに手を振り続ける姿がありました。

なかなか経験できない異年齢同士の交流をこれから大切にしていきたいと思えます。



豆まき

毎年2月の節分の頃に幼稚園では豆まきを行います。子どもたちはそれぞれ鬼のお面と豆入れを作り準備万端に鬼を迎えます。

鬼に扮した体操の先生が、各教室をまわります。どの教室からも「鬼は外、福は内」と必死に言う声が聞こえ、逃げながら鬼退治をする姿が見られました。その後、体操の先生とわかるとホッとしました。笑顔になりました。

子ども達の心には怖いもの存在も大切です。行事を通して、自分の弱い心を見つめなおし心も身体も強く育ててほしいと願います。豆まきと共に敬愛幼稚園にも春が訪れます。

参観が復活しています

学年毎ではありますが、日ごろの幼稚園生活の様子を保護者の方に、ご覧いただく機会を再開しています。子どもたちの成長は待つてはくられず、できる事、上手になった事が日々増えていきます。

参観の英語教室では自己紹介の様子を見ていただき、教室では一緒に製作を行い、体操教室やマラソンの様子も見ていただきました。

少し緊張しながらも嬉しそうなお子様たち、また、じつと我が子を見つめ続けるおうちの方。お互いに喜びがあふれ幸せな空間となりました。成長を共有でき、喜び合える時間の大切さを改めて感じる事ができました。





『気付かないうちに抱えられて』

最近テレビやYouTubeを見ていると、動物が出てくる番組がたくさんあるように思います。

若者のはやはり、TikTokで、短い動画をたくさん見ることができ、楽しかったり、驚いたり、中には涙が出るものまであります。

そんな時に思い出すのがこんなお話です。「阿弥陀様のお救い（私たちをお浄土に迎えてくださるはたらき）は、猿のお救いですか？それとも猫のお救いですか？」という問いをいただいたことがあります。

どういふことかと申しますと、もし子猿が危険になった時、親猿はどのようにして、その危険から子猿を守るでしょう。同じように危険を察知した親猫がどのようにして子猫を

救うでしょうか。考えてみてください。

ヒントです。その親がどのように子どもを救うかを見ていくとわかるような気がします。

親猿は危険を感じると子供のところに真っ先に向かっていきます。子猿を抱き抱えたり、背中に乗せたり、そしてその場から離れていきま。親猿の心の声を聴いてみると、親猿は子猿に対して、「しっかりとつかまっておきなさい、振り落とされるからしっかりとつかまっておきなさい」と言わんばかりの顔をしているように見えます。

一方親猫は、親猿と同様に、子供が危険を感じたら、真っ先に子猫の所へ行き、何も言わずに首筋をそっとくわえて、その子猫を危険な場所から安全な場所に連れ去っていきます。子猫は何をされているのかわからないまま、安全な場所に連れていかれます。

わかりましたか。猿の救いは、子猿の自分の力をたよりにしています。もし子猿の力がなくなってしまうと落ちてしまいます。安全な場所にはたどり着けないようですね。

一方、猫の救いは、子猫には何もありません、親猫が勝手に首筋をそっとくわえて連れていきます。一方的な救いです。

難しい言葉で、摂取不捨（せつしゅふしや）と言います。阿弥陀様の救いは、ちょうどこの親猫が子猫を助けるようにする親の願いです。

阿弥陀様から見れば、私たちが生活している現状も、ちょうど子猫と同じではないでしょうか。車の行き交う道路の脇にいるような、とても危険な状態かもしれません。私たちは、危険な状況にあることすら知らないまま生活しています。

阿弥陀様はそれを黙っては見ておられません。阿弥陀様のお救いは『光』で表現されます。摂取の光明『ひとたびとりて永く捨てぬなり』、一度その光のなかに摂め取ったならば、決して捨てることのないはたらきです。私たちをお浄土に生まれさせるその時まで、阿弥陀様の心はつねに私たちへと向けられています。

阿弥陀様は、すでに私たちの首筋（大きな御手の中に）をそっとくわえられているのかもしれない。

南無阿弥陀仏

芸術鑑賞 「爺さんの空」 劇団アルファ

12月21日（水）に、門司市民会館で、劇団アルファによる劇「爺さんの空」を全校で鑑賞しました。戦争や特攻をテーマに、当時の若者たちの様子をリアルに描いた劇は、迫力があり、平和やいのちの尊さについて、深く考えさせられました。

【生徒の感想】

○普段は触れない戦争についての話を劇として鑑賞した。今自分が過ごしているこの平和な日々は、決して忘れることのできない「戦争」を通して成り立ったものなのだとということを感じた。もともと知っていることが、より深められたという方が自然かもしれないが、もしかしたら知ったふりをしていただけなのかもしれない。これからも日々の平和に感謝して、これからも戦争という非情な行いを恐ろしいもの、二度と繰り返してはいけないものと心に留めて生活していきたい。（中学2年）

○爺さんの空を見て、一人一人の命がどれだけ尊いものなのかがよく分かりました。特攻隊員の人たちがどのくらい痛みを感じたのかは想像しきれませんが、家族の元を離れて、仲間や知り合いが亡くなっていくのを見るのはとても苦しいだろうし、怖かっただろうと思います。そして、もしこの世界に国境が存在せず、みんなが一つの星に住んでいる仲間なのだと思うことができるならば、戦争や争いは無くなっていくのかなと思います。これからは、次の世代の人たちにも戦争は「してはいけない・あつてはならない」のだと伝わってほしい、伝えていきたいです。（高校1年）



卒業生が活躍のフィールド

平成28年度卒業 古元 日奈子さん



はじめまして。私は平成28年に敬愛高校を卒業しました、古元日奈子と申します。

私は現在、人材会社の営業として働いています。仕事内容は、派遣さんと企業の仲介です。つまり、働く意欲のある派遣さんを人手不足で困っている企業へ紹介し、マッチングさせる仕事です。入社2年目の現在は既存の取引先で働いている100名程の派遣さんとの面談や契約管理、また新規求人案件獲得のための訪問営業を行っています。福岡の雇用は少しでも貢献をという思いで働んでいます。各々が意思を持つ「人」が商材である為、思うようにいかないこともあります。例えばある日突然「もう今日から仕事に行きたくない」と派遣さんから連絡が入り、その方の相談を長時間聞く事も

あります。それでも、多くの人達と関わり続けられるのは、高校時代の経験があるからだと思います。

私は勉強もスポーツも不得意でしたが、生徒会に所属し、会長を務めました。私の未熟な部分を先生方や仲間達が補ってくれたお陰で、多くの仕事を成功させることが出来ました。

当時一番難しかったのは、未熟な自分を認める事でした。なぜならそれまでは自身の達成感が最優先だったからです。しかしそれが出来た時、初めて周囲の支えを実感し、同時に仲間達がやりがいを感じられるような指揮を執るという自分の本当の役割に気づかされました。この経験は、現在の仕事でも活かされており、相談をしてくれる派遣さんにもまずは自身を理解し、許してあげるように促しながら真摯に向き合うようにしています。

皆さんもこれから社会に出てより多くの人と出会うと思います。自分を認めずして他人を認めることは難しいので、まずは自分を顧みることが自分らしく歩む上で大切だと思います。

今、夢や目標をもって勉強や部活、趣味に励んでいる人、とにかく目の前のことを一生懸命頑張っている人、中には毎日校門をくぐることも難しい人もいるかもしれません。どんな自分でもいいので、他人と比べず等身大の今の自分を受け入れてあげてください。

先日ふと携帯に保存された高校時代の写真を見て、思わず笑顔がこぼれました。皆さんも敬愛で過ぎてゆく今を、いつか振り返った時、ふと優しい気持ちになれるかもしれません。そんな日が訪れることを願っています。



敬愛中学校 合唱発表会

2022年11月19日(土)に、敬愛中学校合唱発表会を門司市民会館で行いました。

昨年に引き続き、マスクを着用しての合唱となりましたが、どのクラスも練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい合唱を披露してくれました。

厳正な審査の結果、次のクラスが賞に選ばれました。

最優秀賞 2年1組 優秀賞 3年1組

敢闘賞 2年3組

【生徒の感想】

私は、合唱発表会で最優秀賞を取れたことも嬉しいですが、それ以上に合唱でアルトパートの歌声がしっかりと響いていたことが、とても嬉しかったです。私を含めてアルトパートは四人しかいません。歌も難しく、初めは音をとることができませんでした。ですが、みんなで一つ一つ丁寧に音を合わせていきだんだんと音は取れるようになっていきました。それでも全体で合わせる時にアルトの声が聞こえづらいことがありました。本番はとても緊張しましたが、今まで練習してきたことを信じて大きな声を出しました。家に帰って母が撮ったビデオを見ても良かったです。母はステージから遠い場所に座っていましたが、アルトパートの声がしっかりと聞こえていました。とても嬉しかったです感動しました。来年もクラスで協力して良い合唱をし、最優秀賞を取りたいです。

2年1組 竹林 心愛

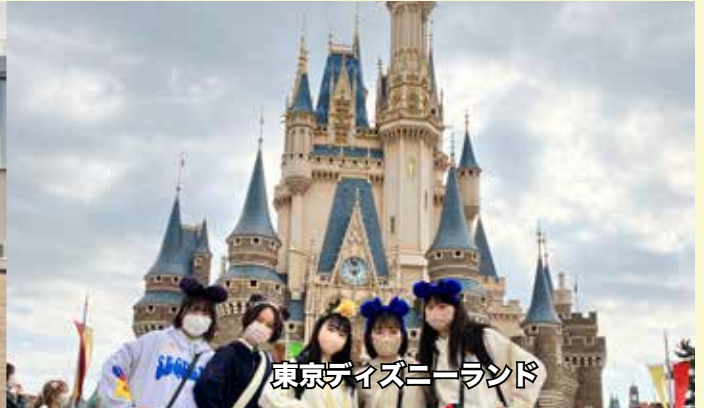


高校 修学旅行

【高校2年生修学旅行（2月27日～3月3日）】

1日目・2日目に訪れた福島県では、東日本大震災で被災された方の話を聞いたり、被災の跡がまだ残る街を見学しました。生徒1人ひとりが震災について深く考え、最後はワークショップを通して学年全体でそれぞれの思いや考えを共有しました。

3日目以降は、東京・千葉に場所を移し、武蔵野大学訪問や東京観光、東京ディズニーランドや築地本願寺への訪問など思い出の残るものとなりました。



中学 修学旅行

【中学2年生修学旅行（2年生・2月28日～3月3日）】

1日目・2日目に訪れた京都では、金閣寺や清水寺、西本願寺へ参拝し、宗門関係校である龍谷大学へ訪問しました。大学では、体験授業・プレゼン発表会を実施し、大学生から高評価を受けました。3日目は、大阪にあるユニバーサル・スタジオ・ジャパンを満喫し、最終日は奈良にある法隆寺・東大寺を訪問しました。たくさんの生徒の笑顔が見られる充実した修学旅行となりました。

